

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3270101169		
法人名	日本海観光株式会社		
事業所名	グループホーム敬愛苑 Bユニット		
所在地	島根県松江市寺町198-57		
自己評価作成日	平成29年11月15日	評価結果市町村受理日	平成30年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2017\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd](http://index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成29年12月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

1番の特徴はビルの4階にあります。グループホーム入口に入る前に広い苑庭を通ります。ユニット内や居室内での狭い空間だけの生活ではなく開放的な空間で運動会や演奏会、グランドゴルフなどを楽しんで頂けます。また春と秋の外出(外食)行事も利用者全員の方に参加してもらえるよう1人ひとりにあった計画を立てお出かけしてもらっていて、利用者と職員、職員同士が明るく笑顔で挨拶を交わしながらお互いに支えあえる関係を目指して日々努力して行きたいと思っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

グループホーム敬愛苑 Aユニット に記載しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念である「人と人、心の和を大切に」は会社の経営信条の中の一つであり、昨年より毎朝唱和することで日々意識しながら利用者の思いに繋げるよう取り組んでいる。新人職員には入社時に説明をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には出来る限り参加している。また複数の公民館からボランティアで来訪されたり、苑内施設を地域の方に利用して頂くことで、地域の方と常に交流を持っている。防災時は一時避難場所にも利用されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会や研修会等で貸し出したり、公民館のボランティア活動の練習などで来苑されることで利用者との交流があり、活動を見て頂くこともある。また近隣からの利用者もおられ、面会等でも深く関わりを持って頂いている。今年もまちゼミに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状況や活動内容、事故の報告とその後の取り組み等を報告し、質問に答えたり、意見交換をしている。また昨年度よりデイサービスが地域密着型になったため、年2回は合同で会議を開催している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは密ではないが利用者様の入居時の相談をしたり、問題や制度についての疑問などの解決には日々対応してもらっている。会議への出席は毎月ではないがある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で拘束をしないという姿勢でケアに取り組んでいて、昨年度より内部研修等を多くして知識上の個人差をなくし、理解が深まるよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体虐待や暴言、無視など職員が気付いていない不適切な行為についてはその都度対応するようにしていて、職員同士、相手の立場にたって考えることができるようお互い注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方や、これから利用を検討されている利用者もおられて担当者との連携の中で学んでいる。また内外の研修には出来るだけ参加をして理解を深めていきたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には退居についても説明をしている。またケアに対する考え方や取り組みなど、対応可能な範囲について説明し、同意を得ている。改正時は文書にて説明をして同意をもらっている。料金については入居検討時から説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来苑時には必ず利用者の状況を説明して声がけしやすい関係作りや意見、思いを伝えて頂きやすいように努めている。出して頂いた意見や思いはミーティング等で話し合い反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とは話しやすい関係作りに努めていて、毎月のユニット会議などでは意見が言いやすい関係作りをしている。常に説得ではなく話し合い、納得できる雰囲気作りをしているがそれで充分だとは思っていない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に現場の状況は把握できる場所において、現場にも出ながら職員個々の努力や実績は把握できるようにしている。休憩時間や場所の確保、有休の消化等にも配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修には出来るだけたくさんの職員が参加できるよう勤務調整を行っている。研修後は会議の場で発表してもらい、実践に繋げている。資格取得のための勤務調整も協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会の会議や研修には必ず出席して交流できるようにしている。また他グループホームからの研修生の受け入れ等も積極的に行い、業務の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを傾聴し、生活歴等の情報を基に安心して過ごして頂けるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、要望、心配なこと等を聞き、安心して入居して頂けるように、説明、対話を行いながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対話をしながら必要な支援を見極め、本人と家族にサービスの提案、相談し、検討して支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各種行事、レクリエーション、家事等を一緒にいき、本人とスタッフが共に楽しみのある生活が出来るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に行事参加を呼び掛けたり、面会時やお便りで本人の様子を伝えている。生活に必要な物や介使用者の様子についての連絡や相談を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や家族の面会時は談話をし、家族と出掛けたり、スタッフが付き添って外出して頂き、馴染みの関係が継続できるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良い関係が築けるようにスタッフが間に入り、声かけをするように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、本人や家族から相談等求められれば応じる態勢はある。 病院への面会や葬儀にも参列している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や生活歴を通して、本人の思いを把握するようにしている。意思疎通が困難な方は、家族の希望や情報を参考にして本人の行動や表情で思いを理解できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に自宅や施設にて、暮らし方や生活歴を本人を始め、家族、ケアマネ、施設職員と面談し情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の方それぞれに合わせた1日を過ごしてもらっている。 利用者の状態を日々カンファレンスを通して話し合い、共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思い、日々の様子、健康状態を把握し、会議にて話し合い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子や心身の状態を個人記録に記録している。 日々の気づきは連絡ノートに記入し、スタッフで情報を共有し、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月季節に合った行事や外部からのボランティアを受け入れている。 本人や家族からの要望に対しても出来る限り対応し面会や外出などの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員・中央包括支援センター職員・市生活福祉課職員、町内会長等に参加して頂き、周辺情報や支援に関する情報を交換し、協力関係を築くように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も本人のかかりつけ医や希望される病院の受診及び往診を受けて頂いている。必要に応じて付き添いや家族と同行し、普段の様子や変化等を伝えるよう努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常時利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるよう努めている。体調や些細な変化も見逃さないよう連携し、早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報提供を医療機関にしている。家族とも回復状況等情報交換しながら、速やかな退院支援に結び付けるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医(協力医)が終末期等の対応をして頂ける場合においては、利用者、家族、医師と十分に相談しながら、苑が対応しうる支援を行うよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。 苑内での応急手当講習を年に1回実施する予定としている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て避難訓練、避難経路の確認、消火器等の使用方法等の訓練を定期的に行っている。自主避難訓練も年2回行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	体調や様子を見ながら人格を尊重し、気持ちよく過ごして頂けるように話しかけ対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を傾聴し、答えやすい選択肢を提示し、自己の思いを決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、様子を見ながら利用者のペースに合わせて、出来るだけ希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出、入浴時利用者の方と一緒に服を選んだり、整髪に気を付け、その人に合うように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方の好みを聞いたり、その人に合った食事を提供し、時には一緒に鍋を囲んだりすることもあり利用者と職員と一緒に食事の準備盛り付け、片付けをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った食事量、水分量を確保するようにし、一人ひとりの状態に合った形態等も工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口の中の汚れ、臭いが生じないよう、一人で出来る方は行って頂き、出来ない方は介助している。月・木と義歯の消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の体調や様子を観察し、利用者の状況に応じた時間に配慮した誘導を行っている。トイレでの排泄が穏やかに行えるような声掛けに気遣い支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄習慣や間隔を把握し、日常生活の中で運動、散歩や水分補給を心掛けている。起床時の牛乳、スポーツ飲料の飲水、を試みるなどし予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が穏やかに安心かつ安全に支援できるように心がけている。個々に応じた対話、勤め方に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の日々の様子、体調を把握して、夜間の様子を観察している。夜間不眠時には本人が不安なく再入眠出来るよう対話、対応を行い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬ファイルにて、薬の内容、副作用、用量を確認できるようにしている。予薬時には、必ずスタッフ二人で確認し、飲まれたか側につき、口を開けて頂くなどの確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った仕事、お手伝い等張り合いのあるような一日にして頂き、自身の力を活かし、自分にも出来たという自信、役に立てたという自尊心で喜びのある毎日になるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に2回春と秋のドライブ外出、外食や誕生日外出など、利用者の希望や状態に合わせて支援している。近くの神社への散歩の支援を行ったり、職員の付き添いにて自宅への一時帰宅や買い物等も支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば所持していただいている。管理が難しくなってきた方に対しては、収支を記録する等して対応していた。本人より希望があった際にも、個別にコンビニへ買い物へ行くなどして対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合、家族の都合を聞いたうえで対応させて頂いている。年賀状など特別な事にはこちらから促すこともある。手紙のやり取りをしておられる利用者は現在おられない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出時の写真や、ボランティアさんをお交えてのレクリエーションの写真など、季節に応じて飾らせていただいている。トイレは便座の温度を暖かく調整しており、お風呂は暖房を用いて寒くないよう利用していただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭で過ごされたり、ラウンジで外を眺められたりされている。観葉植物や懐かしい家具等を配置し、環境作りをこころみている。リビングルームにはレクリエーションで作成した作品等を飾り、会話のタネにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく本人が利用されていた家具や道具を使っていただいている。本人とお話した上で、行事の写真なども貼らせていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮したうえで、自由に生活して頂いている。自分で夜玄関のカギを閉められる方もおられる。廊下の写真を見られたり、共用ソファで休んだり、お話しされたりする方もいる。		